

ミニマル/ コンセプチュアル

ドロテ&コンラート・フィッシャーと 1960-70年代美術



1. ドロテ・フィッシャーとコンラート・フィッシャー 1969年 Photo: Gerhard Richter

ドロテ&コンラート・フィッシャー夫妻によって、1967年にデュッセルドルフで立ち上げられたフィッシャー・ギャラリーは、その類い稀な先見性と幅広い活動から、伝説的な存在として語り継がれています。本展では、近年デュッセルドルフのノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館に収蔵された、同ギャラリーが保管していた貴重な作品や資料と、日本国内に所蔵される主要な作品を通じて、全18作家の活動から1960-70年代のミニマル・アートとコンセプチュアル・アートを振り返ります。

【開催概要】

会 期	2022年1月22日（土）から3月13日（日）まで
会 場	愛知県美術館 [愛知芸術文化センター10階]
開館時間	午前10時から午後6時まで／金曜日は午後8時まで（入館は閉館の30分前まで）
休 館 日	毎週月曜日
観 覧 料	一般 1,400 (1,200) 円 高校・大学生 1,100 (900) 円 中学生以下無料
	※（ ）内は前売券及び20名以上の団体料金です。 ※上記料金で同時開催のコレクション展もご覧いただけます。 ※「身体障害者手帳」「精神障害者保健福祉手帳」「療育手帳」のいずれかをお持ちの方、また、その手帳に「第1種」または「1級」と記載のある方に付き添われる方は1名まで各料金が半額になります。当日会場で、各種手帳（ミライロID可）をご提示ください。（付き添いの方はお申し出ください）。
ア ク セ ス	地下鉄東山線・名城線「栄」駅／名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、 オアシス 21 連絡通路利用徒歩3分
ウェブサイト	https://www-art.aac.pref.aichi.jp/
主 催	愛知県美術館、日本経済新聞社、共同通信社
共 催	ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館
後 援	大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、ゲーテ・インスティトゥート東京
協 力	日本航空
同 時 開 催	愛知県美術館 2021 年度第3期コレクション展
巡 回 先	兵庫県立美術館 2022年3月26日（土）～5月29日（日）
出 品 点 数	135点（予定）

【みどころ】

1. アメリカ・ヨーロッパを中心とした1960-70年代の国際的な美術動向を概観します。

フィッシャー・ギャラリーでは、ドイツ国内にとどまらずヨーロッパ諸国やアメリカの作家を積極的に紹介しました。本展は、日本国内の展覧会では取り上げられる機会の少ない、1960-70年代の国際的な美術動向を概観する貴重な機会となります。

2. 豊富な資料類によって、作品の制作プロセスや発表当時の様子を明らかにします。

フィッシャー夫妻と作家のあいだでやり取りされた書簡や制作指示書などを通じて、作品がどのようなプロセスで制作されていたかを明らかにします。また作品が発表当時フィッシャー・ギャラリーでどのように展示されていたかについても、豊富な写真資料によって紹介します。

3. 現代美術の源流となる価値観や考え方に触れる機会となります。

1960-70年代には、直観的で個性的な表現の偏重からの解放、作品制作を担う唯一の存在としての作家の否定、コンセプトやアクションの重視といった、今日の美術にも通じる新たな価値観や考え方が生まれました。本展は、現代美術をより深く理解する機会ともなるでしょう。

【展覧会構成と出品作家】

- | | |
|--------------|--|
| 1章 工業材料と市販製品 | カール・アンドレ (1935-)、ダン・フレイヴィン (1933-1996) |
| 2章 規則と連続性 | ソル・ルウィット (1928-2007)、ベルント&ヒラ・ベッヒャー (1931-2007, 1934-2015) |
| 3章 数と時間 | ハンネ・ダルボーフェン (1941-2009)、河原温 (1932-2014) |
| 4章 「絵画」の探求 | ロバート・ライマン (1930-2019)、ゲルハルト・リヒター (1932-)、
ブリンキー・パレルモ (1943-1977) |
| 5章 場への介入 | ダニエル・ビュレン (1938-)、リチャード・アートシュワガー (1923-2013) |
| 6章 枠組みへの問いかけ | マルセル・ブロータース (1924-1976)、ローター・バウムガルテン (1944-2018) |
| 7章 歩くこと | リチャード・ロング (1945-)、スタンリー・ブラウン (1935-2017) |
| 8章 知覚 | ヤン・ディベッツ (1941-)、ブルース・ナウマン (1941-) |
| 9章 芸術と日常 | ブルース・ナウマン、ギルバート&ジョージ (1943- , 1942-) |

※展覧会会場では章の順序が前後する場合があります。

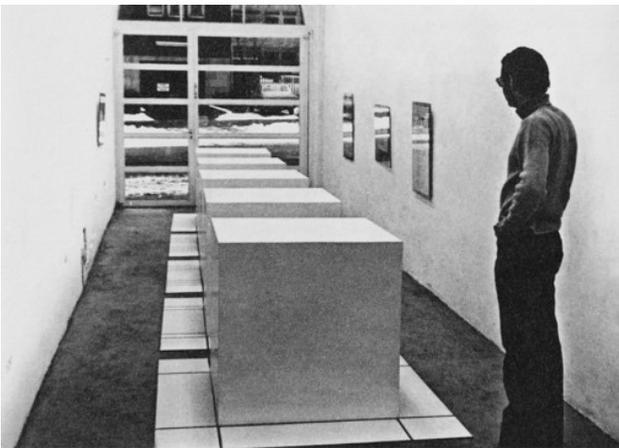
【フィッシャー・ギャラリーとは】

ドロテ・フィッシャー (1937-2015) とコンラート・フィッシャー (1939-1996) の夫妻によって、1967年にデュッセルドルフに立ち上げられたギャラリー。当初は約3m×11mの小さな展示空間しか持ち合わせていませんでしたが、その先見性のある活動からすぐにその名が知れ渡りました。夫妻の没後もギャラリーは現在まで運営を続けており、オープン当初から継続して開催してきたカール・アンドレらの展覧会のほか、若手作家の展覧会も開催しています。

【展示内容】

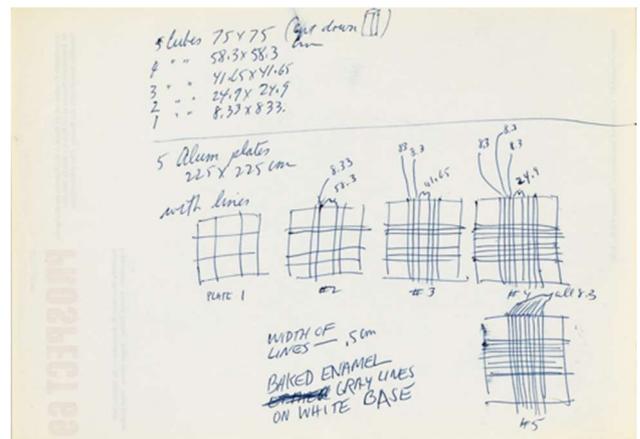
ドロテ&コンラート・フィッシャー夫妻 [図1] は、1967年にデュッセルドルフにギャラリーを開き、同時代の国際的な動向をいち早く紹介しました。当時の若い作家たちは、1950年代にアメリカを中心に大きな影響力をもっていた抽象表現主義と呼ばれる動向に対して、憧れを抱きつつも同時に反発もしていました。彼らは、抽象表現主義の絵画に認められる、直観的な色彩やフォルムの配置、絵具に残された身振りの痕跡といった作家の個性を示すような表現性を捨て去って、幾何学的で単純なかたちの絵画や彫刻を制作しました。こうした新たな動向は、批評家たちによってミニマル・アートと呼ばれ始めます。

その代表的な作家のひとりであるカール・アンドレを、フィッシャー・ギャラリーは最初の展覧会で取り上げました。アンドレは工業的に生産された金属の板やブロックを用いて作品を制作しました。従来、作家によって完成された作品は、確固たる存在としてその地位が保証されてきましたが、互いに接続されることのないアンドレの作品は、彼自身やほかの誰かの手によって容易に解体され再構成されうるもので、作品や作家の地位を大きく揺るがすものでした。同様に1960年代にフィッシャー・ギャラリーで紹介されたダン・フレイヴィンは、既製品の蛍光灯を用いて作品を制作しました。人工の光を用いて作品を制作する作家はほかにもいましたが、多くの作家が自由に変形できるネオン管を用いたのに対して、フレイヴィンはあえて規格化された蛍光灯を用いて、制作に直観的な判断が入り込む余地を排除したのです。ソル・ルウィットが、1968年にフィッシャー・ギャラリーで発表した新作《隠された立方体のある立方体》[図2]を実現するために、コンラート・フィッシャーに送った作品の制作指示書 [図3] は、当時のミニマリストの作品制作のあり方をよく示しています。作品はもはや作家の手を一切介さずに、各部の寸法や塗装の方法などが記された制作指示書を通じて、技術者によって実現されたのです。



2

フィッシャー・ギャラリーにおけるソル・ルウィット《隠された立方体のある立方体》の展示 1968年 Photo: Fred Kliché

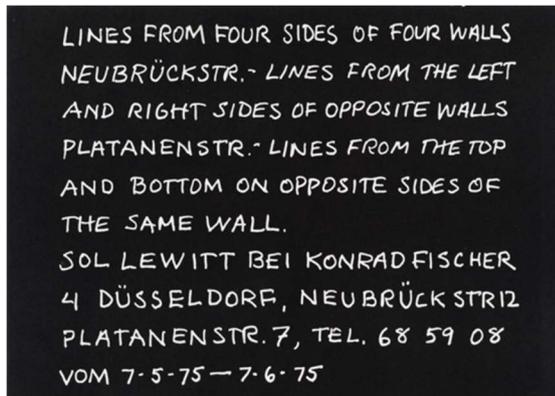


3

ソル・ルウィット《隠された立方体のための提案》制作年不詳 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館

© 2021 The LeWitt Estate; Photo: Achim Kukulies, Düsseldorf

ミニマリストたちによって、新たなアートのあり方が提示されていく状況のなかで、芸術制作において最も重要なのは、作品の構成を決定するコンセプトであるという考え方が現れはじめます。先述のソル・ルウィットは、1967年に「コンセプチュアル・アートに関する断章」というテキストを発表してコンセプトの重要性を説くとともに、制作のコンセプトそれ自体を積極的に公開していきます。1975年のフィッシャー・ギャラリーにおける個展の招待状 [図 4] には、同展で発表された壁面ドローイングを制作するために、技術者に伝えられた制作指示が記されています。



4

ソル・ルウィットの展覧会「4つの壁の4つの縁から生じる線」の招待状 1975年
ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館 © 2021 The LeWitt Estate;
Photo: Achim Kukulies, Düsseldorf

物理的な作品よりもコンセプト自体を重視していく態度は、数字の計算という思考の過程を提示するハンネ・ダルポーフェンや、起床時間を記した絵葉書を知人に毎日送り続けた河原温にも認められます。二人組の作家であるギルバート&ジョージ [図 5] は、自らを「生きた彫刻」とみなして、彼らの日常それ自体がアートであると考えました。それゆえ物理的な作品として残されるのは、彼らの行為の記録であって、たとえば《アーチの下で (ボックス)》 [図 6] は、「歌う彫刻」として彼らが各地で実演した際の、記録写真や招待状などを収めたものです。



5

ギルバート&ジョージとコンラート・フィッシャー 1973年
Photo: Konrad Fischer Galerie



6

ギルバート&ジョージ《アーチの下で (ボックス)》 1969年
ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館
© 2021 Gilbert & George; Photo: Achim Kukulies, Düsseldorf

1960-70年代は、社会的な変革と連動しながら、アートにおける新しい価値観が次々に生まれた時代でした。そこで生まれた価値観や考え方は、今日の現代美術の源流をなすものであると言っても過言ではないでしょう。本展では、デュッセルドルフのノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館の全面的な協力のもと、フィッシャー・ギャラリーが保管していた貴重な作品や資料、ならびに日本国内に所蔵される主要な作品を通じて、全18作家の活動から1960-70年代のミニマル・アートとコンセプチュアル・アートを振り返ります。

ミニマル／コンセプチュアル 広報用画像申込書

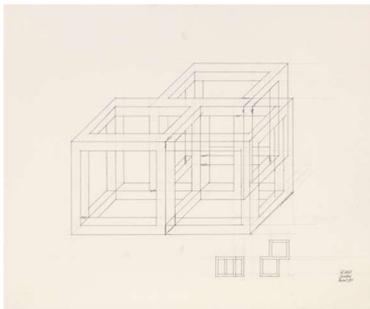
※ご掲載にあたっての注意事項

- ・必ず以下に記載されているキャプション情報を全て明記してください。
- ・画像はすべて全図でお使いください。改変、部分使用、文字載せなどはできません。
- ・基本情報の確認のため、校正原稿を事務局宛にFAXまたはメールでお送りください。
- ・掲載・放送後、掲載誌（紙）やリンク、DVD、CD-ROM等を事務局宛にお送りください。
- ・本申込書に掲載されていない画像をご希望の場合は、広報担当までご相談ください。

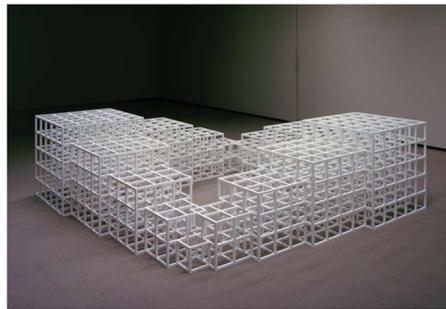
※会場撮影に関するお願い

三脚等を使用する撮影をご希望の方は、事前に広報担当までご相談ください。休館日、または閉館時間内で日程を調整いたします。

- 1 ドロテ・フィッシャーとコンラート・フィッシャー 1969年 Photo: Gerhard Richter
- 2 フィッシャー・ギャラリーにおけるソル・ルウィット《隠された立方体のある立方体》の展示 1968年 Photo: Fred Kliché
- 3 ソル・ルウィット《隠された立方体のための提案》制作年不詳 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館 © 2021 The LeWitt Estate; Photo: Achim Kukulies, Düsseldorf
- 4 ソル・ルウィットの展覧会「4つの壁の4つの縁から生じる線」の招待状 1975年 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館 © 2021 The LeWitt Estate; Photo: Achim Kukulies, Düsseldorf
- 5 ギルバート&ジョージとコンラート・フィッシャー 1973年 Photo: Konrad Fischer Galerie
- 6 ギルバート&ジョージ《アーチの下で（ボックス）》1969年 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館 © 2021 Gilbert & George; Photo: Achim Kukulies, Düsseldorf
- 7 ソル・ルウィット《モジュラー・ストラクチャーのためのワーキング・ドローイング》1970年 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館 © 2021 The LeWitt Estate; Photo: Achim Kukulies, Düsseldorf
- 8 ソル・ルウィット《ストラクチャー（正方形として1、2、3、4、5）》1978-80年 滋賀県立美術館 © 2021 The LeWitt Estate
- 9 ゲルハルト・リヒター《エリザベート（CR104-6）》1965年 東京都現代美術館 © Gerhard Richter 2021 (07042021)



7



8



9

媒体名： _____

ジャンル： 新聞／雑誌／テレビ／WEB／その他（ _____ ）

掲載・放送予定日： _____

貴社名： _____

ご担当者名： _____

E-mail： _____

所在地：〒 _____

電話： _____

問い合わせ先 / 校正原稿等の送付先

ミニマル／コンセプチュアル展実行委員会事務局
展覧会内容に関すること：展覧会担当 黒田、中野
広報掲載に関すること：広報担当 田村

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

TEL: 052-971-5511 (代)

FAX: 052-971-5604

E-mail: art11@aac.pref.aichi.jp